

福田病院が担う役割について

平成30年6月29日
医療法人社団愛育会福田病院
病院長 河上 祥一

1 現状と課題（1）

福田病院は、女性のライフステージである、誕生から思春期、妊娠出産を迎える成熟期、更年期、老年期に至るまで女性すべての健康を守り、その生活を支援しサポートするウーマンズホスピタルを目指しています。

1. 病院の理念

- 1) 私たちは高度で最先端の医療を追求します。
- 2) 私たちは患者様の権利を尊重し、人間的で暖かい医療を提供します。
- 3) 私たちは医療を通じて、地域の人々の幸せに貢献します。

2. 基本方針

- 1) 医療の進歩に対応できる人材育成のため、知識、技術、人格を高める環境を整えます。
- 2) 医療機器、設備、施設の整備と充実を図り、患者様に安全で快適な環境を提供します。
- 3) 地域周産期母子医療センターとして、常に体制の充実を目指します。
- 4) 各機関との連携を図り、地域の皆様の要望に応える医療の提供を行います。

1 現状と課題（2）

7対1 一般入院基本料

総合周産期特定集中治療室管理料(母体・胎児)(新生児)

小児入院医療管理料3

平均在院日数8日

職員数

(常勤医師28名、看護職員279名、その他専門職18名、事務職員59名)

平成18年3月に熊本県で2番目の「地域周産期母子医療センター」の指定を受け、熊本市民病院、熊本大学医学部附属病院、熊本赤十字病院との連携のもと、熊本県の周産期医療の一翼を担って参りました。

2 今後の方針

【地域において今後担うべき役割】

福田病院は1907年に設立され、医療を通じて女性の幸福に貢献することを目的とし、その時代に応じて地域医療の一翼を担って来た女性専門病院です。

「安全・安心・快適」をスローガンに、母子の安全を守るため、高度先端医療に取り組んでいます。100年以上もの間、地域医療の一端を担ってきた歴史の中で、私たちは命の重さ、命の尊さを、誰よりも強く知っています。

地域周産期母子医療センターとして、NICU、MFICUを併設し、ハイリスクの妊婦と赤ちゃんを県下全域から24時間体制で受入れています。

この役割については、継続して重責を担っていかなければならないと考えております。

職員確保の面では、産婦人科医師、新生児内科医師、助産師、看護師(特に夜勤が可能な職員)の確保が難しい状況にあります。

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【 4 機能ごとの病床のあり方 その1 】

単位：床

病床機能	2017年(平成29年)	2023年(平成35年)	2025年(平成37年)
高度急性期	30	33	33
急性期	131	128	128
回復期			
慢性期			
その他			
合 計	161	161	161

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【 4 機能ごとの病床のあり方 その2 】

当院は、明治40年の病院開設以来、母子医療の充実に鋭意努力して参りました。関係者各位の了解を得て、平成18年3月に熊本県で2番目の周産期医療の基幹施設として「地域周産期母子医療センター」の指定を受け、熊本県の周産期医療の一翼を担って参りました。

熊本県における母子救急搬送受入体制の改善策として、県外への搬送を無くすことを目標とした熊本県救急医療情報システム(熊本県周産期医療情報ネットワーク)が構築され、各周産期医療機関の空床状況を共有することで、母体と新生児搬送の受入先決定の指標となっています。また、有機的な機能分担を図るため、各周産期医療機関の受入基準が示され運用されています。

このように充実した体制の構築がなされた現在にあっては、当院の担っていくべき役割は決して小さいものではないと考えるところです。

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【 4 機能ごとの病床のあり方 その3 】

現在の高度急性期病床30床

- ・MFICU 6床
- ・NICU 24床

平成30年度目標 < 高度急性期病床33床 >

看護部スタッフの充実を図り、MFICUを9床に増床する予定にしています。

- ・MFICU 9床
- ・NICU 24床

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【 診療科の見直し 】

	現時点 (2018年3月時点)	2025年	理由・方策
維持	産科、婦人科、小児科、 小児外科、新生児内科、 麻酔科、乳腺外科、 肛門外科	現在の診療科を維持	
新設			
廃止			
変更・統合			

3 具体的な計画 (2) 数値目標

	現時点(2017年 12 月時点)	2025年
病床稼働率	87%	増加を目指す
紹介率		
逆紹介率		

4 その他特記事項

【地域周産期母子医療センターの充実・発展】

免震構造の新病棟建築及び既存棟(耐震構造)の改築を予定しており、患者様のアメニティの更なる改善を図っていきます。

合併症のない周産期患者に対し、総合周産期母子医療センターへの転換を考えております。